

めぐみの学校の子

恵田小

校長室だより

令和元年八月三十日

No.134

「めぐみ」と「和」

少し朝夕は気温が下がり、夏休みの終わりを告げるかのように鳴くツクツクボウシの声。いただいたスズムシのきれいな音色も響き始めた。

2学期は、実りのとき。恵田小ではたくさんの実りという「めぐみ」をいただく。ブドウ、もち米、キウイ、コンニャクイモ、ジネンジョ、サツマイモ、サトイモなど、各学年で栽培してきたものを収穫していく。

栽培物だけではなく、恵田っ子も大きく成長するときだ。水泳陸上部の参加する陸上大会、ぶどう初狩り、敬老会、稲刈り、市民体育祭、理科・家庭科・社会科作品展、おかざきっ子展、学芸会・学区文化祭、修学旅行、社会見学、落ち葉スキー開場式、岡聾交流、朝のかけ足、マラソン大会と、たくさんの行事を進めるなかで大きく成長する。行事を成功に導くことを通して、恵田っ子の成長、自己実現につないでいきたい。恵田っ子も実りのときを迎える。

何もしないならば、「めぐみ」にはならない。日々の世話、努力、苦労があつてこそだ。夏休みの終わり、恵田小ぶどう園にサルが入り荒らされた。今までなかった出来事だ。落ち葉スキー場もイノシシに荒らされた。例年にないアクシデントもある。

2学期は「和」がいっそう重要になる。学校・恵田っ子・保護者・地域の「和」で「めぐみ」を大きくしていきたい。

きのうは、サル対策に、早めに収穫したシャインマスカットを全校でいただいた。



シャインマスカットを味わう会

恵田っ子へ

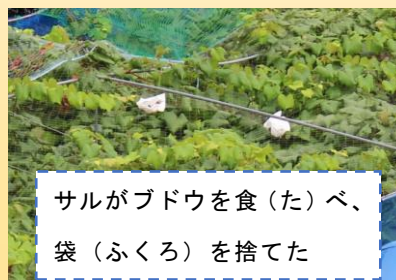
「生(い)き物(もの)のいのち」

わたしたちは、生き物のいのちのつながりの中で生(い)きています。しっかりとつながっていることが大事(だいじ)です。

きのう、六年生(ねんせい)が「シャインマスカットを味(あじ)わう会(かい)」を開(ひら)き、全校みんなでいただきました。六年生からの話(はなし)のとおりサルによる被害(ひがい)がぶどう園(えん)にあったからです。

これまでは、サルの被害にあうことはありませんでした。本来(ほんらい)、サルたちは山(やま)に自分(じぶん)たちのえさ場(ば)があり、里(さと)の栽培物(さいばいぶつ)をとることはありません。山(やま)にえさがなく、栽培物(さいばいぶつ)をとるといのは、生き物の命(いのち)のつながりがおかしくなっていることをあらわしているように思(おも)います。

サルにブドウをとられるのは嫌(いや)ですが、そうなった原因(げんいん)は何(なん)でしょう。考えてみてください。



サルがブドウを食(た)べ、袋(ふくろ)を捨てた